

(平成 30 年 12 月試験研究業務月報)

試験研究課題：マーケットインを実現する契約栽培の拡大

1 加工用キャベツの長期安定出荷技術の確立

研 究

春どり加工用キャベツの省力施肥技術

当センターでは、丹後地域の開発農地を中心に栽培面積が増えている加工用キャベツの栽培において、長い期間にわたって養分が溶け出す特性を持つ肥料を利用することにより、施肥回数を減らして省力化する方法を検討しています。

このうち市場ニーズが高い、秋に苗を定植して春に出荷する栽培では、低温条件下での溶出に未解明な点が多く、溶出程度を予測することが難しいため、溶出タイプの違う複数の肥料の効果を比較する試験を行っています。

今後は、キャベツの生育状況や収穫量の調査結果に加えて、今年度の試験で使った肥料が実際にどの程度溶出したかなどを定期的に調べた結果とあわせて、最適な肥料を選定することになっています。



4 月どり (左上)、5 月どり (右上) キャベツの生育状況 (12 月 21 日)
肥料をお茶パックに入れて土に埋め (下)、定期的に回収して残った成分を分析し、溶出した程度を調べます。